（１）学生の確保の見通し

１.学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

（１）学生の確保の見通し

ア．定員充足の見込み

健康科学研究科健康科学専攻（修士課程）の入学定員については、私立大学大学院の保健系研究科修士課程の動向及び首都圏の競合大学院の入学状況（資料１、資料２）、本学の教員組織、校地、校舎等の施設、設備等を総合的に検討し、長期的かつ安定的に学生を確保できる適正な規模として入学定員を８人に設定した。

定員充足の見込みについては、保健医療、社会福祉関係等の施設に勤務する保健医療関連職者、本学の卒業生、在学生による受験意向及び入学意向に関するアンケート調査（資料３）の結果、「受験したい」と回答した者が 24 名（23.3%）、「合格したら入学したい」と回答したものが 17 名（70.8%）であった。保健医療関連職は、理学療法士 51 名（49.5%）、看護師 21 名（20.4%）であったことから、現職の看護師、理学療法士及び本学の卒業生の入学が見込めるため、長期的かつ安定的に学生が確保できると判断する。

イ．定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

（ア） 私立大学院の看護学研究科修士課程の入学志願動向（資料１）

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」（平成 29 年度～令和 3 年度）から、私立大学院の保健系修士課程及び博士前期課程の過去５年間の志願動向をまとめた。保健系修士課程及び博士前期課程については拡大傾向にあり、研究科数（111→144）、入学定員（1839 名→2318 名）、志願者数（1939 名→2370 名）、入学者数（1659 名→1916 名）のいずれも増加している。

この「保健系」には、看護分野やリハビリテーション分野等の複数の分野が含まれているが、年々、研究科数や志願者数、入学者数が増加していることから保健医療分野を専門とする高度な専門職業人、研究者、大学教員を目指す社会的なニーズは継続的にあると考えられる。

（イ）健康科学研究科と競合する私立大学大学院の修士課程入学志願状況（資料２）

健康科学研究科の教育・研究内容と競合することが考えられる私立大学大学院の研究科のうち、健康科学研究科として大学院を開設していること、基礎となる学部が複数であることを考慮して選択した研究科について過去 3 年間の入学志願状況をまとめた。

その結果、入学定員を充足しない研究科がある一方で、入学定員を充足しない年度はあるが、3 年間の平均充足率は 3 大学において、80～100%であることがわかった。このことから、健康科学研究科において継続的に確保できる入学定員を 8 名と想定

し、これを裏付けるため保健医療、社会福祉関係等の施設に勤務する保健医療関連職者、卒業生、在学生対象のアンケート調査を実施した

（ウ）受験意向及び入学意向に関するアンケート調査（資料３）

令和 4 年 1 月に、千葉県内の保健医療、社会福祉関係等の施設に勤務する保健医療関連職者、本学の看護学部看護学科、福祉総合学部理学両府学科の卒業生、3，4 年生を対象に、健康科学研究科設置構想の概要を説明した上で、健康科学研究科への進学及び関心度についてアンケートを実施した。アンケート調査の結果は以下の通りとなった。

⑴　回答者の専門資格や免許ついて問う質問への回答結果では、保有している専門資格や免許は、回答の多い順に理学療法士が 51 人（49.5%）、看護師が 21 人（20.4%）、保健師が 6 人（5.8%）、作業療法士、言語聴覚士及び介護福祉士が 2 人（1.9%）、その他保健医療関連職が 8 人（7.8%）、特になしが 23 人（22.3%）（大学生 19 人含）であった。

⑵　受験意向を問う回答結果では、回答者 103 人のうち 24 人（23.3%）が「(本大学院を) 受験したい」と回答した。また、「受験したい」と回答した 24 人のうち、入学意向を問う回答結果では、17 人（70.8%）が合格した場合、入学したいと回答した。その他、合格した場合、併願する大学院の結果によっては入学したいと回答した者が 7 人いることから、更に入学を希望する者が増加すると見込まれる。

健康科学研究科の入学定員は８名であり、それを十分に上回る受験意向・入学意向の回答を得ていることから、健康科学研究科が設定する入学定員を継続して確保できると考えられる。

ウ．学生納付金の設定の考え方

健康科学研究科健康科学専攻の学費等納付金については、本学既設の研究科及び、主に首都圏の医療系私立大学院のうち本専攻と同様の分野の専攻を設置する研究科の学費等納付金について調査を行い（資料４）、検討の結果、以下の通り設定した。

・入学金　　270,000 円
・授業料　　630,000 円
・施設設備費　150,000 円

上記学費の金額は調査対象とした研究科における平均額となっているため、適切な金額であると考えられる。

（２）学生確保に向けた具体的な取り組み状況

（２）学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学全体で行う学生確保に向けた取り組みのほか、健康科学研究科と基礎となる学部である看護学部、福祉総合学部が連携して行う取り組みを含め、以下の通り実施する。

ア．大学院進学説明会の開催

大学院進学説明会を年４回開催し、健康科学研究科における学修内容、選考方法、学費等、大学院進学の意義について、個別に詳しく説明することで、大学院進学に興味関心をもってもらい、学生の確保につなげる。

イ．実習施設指導者との連携

看護学部看護学科、福祉総合学部理学療法学科では、臨地実習において実習施設と密な連携を保つため、実習施設を訪問し、実習前には臨地実習の調整、実習後には実習での学び等を共有している。受験意向及び入学意向に関するアンケート調査の結果、回答者の半数以上が看護師、理学療法士であったことから、このような機会を活用し、健康科学研究科の広報活動を行い、学生の確保につなげる。

ウ．パンフレット及び Web サイトの活用

パンフレット及び Web サイトを作成して情報提供を行う。また、これらの媒体を活用して、学外の関係機関にパンフレットを送付する等、積極的な広報活動を行う。

エ．定員未充足（定員超過率 0.7 倍未満）の学科等について

定員超過率 0.7 倍未満となっている福祉総合学部福祉総合学科(定員 140)は、2020 年度まではソーシャルサービスコース(50 名)・介護福祉コース(40 名)・子ども福祉コース(50 名)の 3 コースで運営していたが、令和３年度より福祉行政コースを新設し留学生受け入れを本格的に実施(定員充足率：令和２年度入学生 0.59⇒令和３年度入学生 0.64)。さらに令和４年度より介護福祉コースを廃止し、福祉行政コース(令和５年度：福祉マネージメントコースに名称変更予定)における留学生の増員を図っていく。

申請時点での過去 4 年の入学定員超過率は以下のとおりとなっている。

項目	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	平均入学定員超過率
入学定員超過率	(0.48)	(0.52)	(0.56)	(0.65)	(0.55)
入学者数	68	74	79	91	
入学定員	140	140	140	140	

オープンキャンパスや Web サイトなどを活用して、学科の取組をわかりやすいものに変更

していることが、少しずつ結果に表れている。

アジア諸国の福祉行政にも寄与できるようにと、福祉マネジメントコース（現 福祉行政コース）を設置し、外国人留学生の学びの場を用意した。コロナ禍、外国人留学生に対しては、厳しい募集状況が続いてはいるが、秋入学制度も積極的に取り入れ、入学の機会を増やして、定員確保に努めている。

（1）人材の養成に関する目的
その他の教育研究上の目的
（概要）

２．人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

健康科学研究科では、沿革に記載した、保健・医療・福祉の総合的視野を持った高度専門職業人と対応する。より具体的には、さまざまな健康の構成要素を視野にいれた総合的な次元のモデルである「健康科学モデル」をもちながら、自身の専門性において健康を科学的に研究できる人材、そして高度実践が提供できる人材を養成する。

「保健・医療の分野を横断し、現代の健康問題に対応することができる総合的視野を養い、これまで培ってきた自身の専門性を掘り下げ、健康の構成要素を追求し、健康を科学的に研究でき、かつ、高度実践ができる人材を養成する。」を教育研究上の目的とする。

教育研究上の目的に基づいて、以下の人材養成を目指す。

- 健康の多様な構成要素を理解し、健康を総合的かつ多角的方面から捉えることができる。
- 実践現場でリーダーシップをとり、実践を変容させていくためのマネジメントを行うことができる。
- 経験知を学術的に証明し普及させることができる。
- 新しい学術知を正しく理解して実践に生かすことができる。
- 健康科学の視点を持ちながら、それぞれの専門領域の実践を高度に探究することができる。
- 高度専門職業人として、健康を科学的に研究し、現場の課題解決のために働きかけることができる。

（2）上記（1）の目的が社会的、
地域的な人材需要の動向等を
踏まえたものであることの
客観的な根拠

（2）上記（1）の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア．社会的な人材需要の動向等

平成 27 年６月､厚生労働省は『保健医療２０３５提言書』を出し､2035 年までに必要な保健医療のパラダイムシフトのひとつとして、『キュア中心からケア中心へ』を挙げている。

そこには『疾病の治癒と生命維持を主目的とする｢キュア中心｣の時代から､慢性疾患や一定の支障を抱えても生活の質を維持･向上させ､身体的のみならず精神的･社会的な意味も含めた健康を保つことを目指す｢ケア中心｣の時代への転換』を図ることが掲げられている。さらに、健康は従来の医療の枠組みを超え、国民一人ひとりが保健医療における役割を主体的に果たすことを謳っている。

そして、2035 年に向けた 3 つのビジョン、「リーン・ヘルスケア ～保健医療の価値を高める～」、「ライフ・デザイン ～主体的選択を社会で支える～」、「グローバル・ヘルス・リーダー ～日本が世界の保健医療を牽引する～」を掲げている。また、これらのビジョンを達成する基盤として､｢イノベーション環境｣｢情報基盤の整備と活用｣｢安定した保健医療財源｣｢次世代型の保健医療人材｣｢世界をリードする厚生労働省｣５つのことを整備する必要があると言及している。その中の一つである「次世代型の保健医療人材」の具体的なアクションとして、あらゆる医療従事者が、常に良い保健医療の提供に邁進できるようにする。複数の疾患を有する患者を総合的に診る能力や、予防、公衆衛生、コミュニケーション、マネジメントに関する能力を有する医師の養成や保健医療と福祉の多職種連携を前提とした人材育成を推進することを提言している。

健康科学研究科では、縦割り教育となっているこれまでの専門分野ごとの教育から脱皮して、「メディカル基礎領域」、「看護学領域」、「リハビリテーション学領域」が連携して教育課程を編成することで、日々の教育課程を通して、自分の主となる専門と近接領域との境界線をつなげて、多角的視野から健康を科学し、問題を解決するための素地を涵養し、高度専門職業人を養成する。よって、健康科学研究科における人材養成は、厚生労働省が掲げる保健医療のパラダイムシフトするためのインフラ整備のひとつである、次世代型の保健医療人材に繋がると考えられる。

参照：

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/hokeniryou2035/

イ．地域的な人材需要の動向等

本学が位置する千葉県東金市は、県二次保健医療圏域では山武長生夷隅保健医療圏域に分類される。県内でも人口がまばらな地域であり、医療機関の偏在や、高齢化などが深刻な地域課題となっている。限られた資源と地域医療がもっぱら人々の健康を支

えている地域であり、保健・医療・福祉サービスの質は、一人ひとり専門職者の肩にかかっているといっても過言ではない。

このような地域において、人々の健康を支えるには、異なる専門を持つ専門職者同士が専門分野をまたぎ重なり合わせながら、有機的連携を持つことが避けられない。したがって、多職種連携において、リーダーシップが取れる、保健・医療・福祉の総合的視野を持った高度専門職業人が特に必要とされている。よって、地域に根付いた教育、地域貢献を大切にしながら、保健・医療・福祉系学部が連携した学部教育を邁進してきた本学であるからこそ、多職種連携において、リーダーシップが取れる、保健・医療・福祉の総合的視野を持った高度専門職業人を養成することが求められている。

ウ．本研究科が養成する人材の社会的需要について

山武長生夷隅保健医療圏域を中心に、18 の保健医療機関及び施設に次の質問を実施した。

「多職種連携において、リーダーシップが取れる、薬学・看護・リハビリの総合的視野を持った高度専門職業人を育成しようとしている大学院ですが、このような大学院を修了した人材を必要とされていますか？」

その結果、すべての施設において本研究科が養成する人材は必要であると回答を得た。

具体的な回答例は以下の通りである。

・看護の質をあげるためにもリーダーシップをとることができる人材は求められており、近隣にこのような人材を育成してくれるのはとてもありがたいことである。

・一つの専門職の中にいない、有機的につながっていける専門職人材が求められていると思われる。

・今の医療現場において、多職種連携は不可欠となっているが、リーダーシップを取るための系統だった教育の機会が圧倒的に不足しているため、その教育の機会を確保するために大学院教育が不可欠と考える。

・病院という閉鎖組織から外に目を向けて、いわゆる「地域」に立脚するのであれば、薬剤師、看護師、理学療法士が多職種連携に関わるリーダーシップをとれるような資質を有することは必要と考える。「地域」と言われる領域においては、これら３職種が医療・福祉に関わる多職種の連携についてリーダーシップが取れるよう人材を育成する必要があると考える。

・現場で感じる疑問や悩みを出張指導にて解決・学習の機会が得られるカリキュラムは有意義であり、そのようなカリキュラムで学び総合的視野を有した高度専門職業人は必要と考える。

・自宅退院の準備を進めている際に服薬管理に関して、リハビリ職や看護師、薬剤師の

３職種の意見を総合的に判断、アセスメントし、服薬アドヒアランスを順守できるように働きかけられるかどうかは非常に重要であり、総合的な判断ができる人材が必要である。

・保健師だけの考えでは福祉が手薄になったりもする。他の分野を理解して、広くつないで、リーダーシップがとれる人材は必要である。

以上のことより、本研究科が養成する人材は、山武長生夷隅保健医療圏域を中心に社会的需要が高いことが示された。

資料1（保健系修士課程及び博士前期課程の入学志願動向（私立大学院））

【資料１】

保健系修士課程及び博士前期課程の入学志願動向（私立大学院）

年度	集計 研究科数	入学定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
平成 29 年度	研究科	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
	111	1839	1939	1903	1659	1659	1.05	87.22	95.06	85.75
平成 30 年度	125	1979	2126	2083	1839	1839	1.07	88.29	96.41	89.59
平成 31 年度	130	2087	2247	2202	1927	1927	1.08	87.51	95.43	88.12
令和 2 年度	135	2149	2158	2114	1805	1709	1.00	85.38	94.68	79.53
令和 3 年度	144	2318	2370	2311	2102	1916	1.02	87.06	95.23	82.66

資料２（健康科学研究科と競合する私立大学大学院の研究科修士課程入学状況について）

【資料 2】

健康科学研究科と競合する私立大学大学院の研究科修士課程入学状況について

都道府県	大学名	研究科名	専攻名	入学定員	入学者			入学定員充足率
					H31	R2	R3	(平均)
東京	国際医療福祉大学大学院	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	160	249	243	171	1.69※
東京	文京学院大学大学院	保健医療科学研究科	保健医療科学専攻	20	14	19	24	0.95
神奈川	昭和大学大学院	保健医療学研究科	保健医療科学専攻	20	21	16	16	0.88
神奈川	東海大学大学院	健康科学研究科	保健福祉学専攻	10	―	3	3	0.3

※ 国際医療福祉大学大学院の定員は、令和 2 年度において 100 名から 160 名としていることから、入学定員充足率の平均は平成 31 年度の定員 100 名で計算し平均を算出している。

資料３（「設置構想についての入学意向ニーズ調査」報告書）

城西国際大学 大学院

健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程

（仮称・令和５年４月開設予定・設置構想中）

「設置構想についての入学意向ニーズ調査」報告書

令和 4 年 2 月 21 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1　調査の概要　1

2　全質問項目の集計結果　2

3　集計結果のポイント　9

添付資料

「城西国際大学大学院「健康科学研究科（仮称）」（設置構想中）に関するアンケート」調査用紙　19

1　調査の概要

◆ 調 査 目 的 ：　本調査は、城西国際大学大学院が令和 5 年 4 月設置に向けて構想中の「城西国際大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆ 調 査 期 間 ：　令和 3 年 11 月～令和 4 年 2 月

◆ 調 査 対 象 ：　令和 5 年 4 月に設置を構想中の「城西国際大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程（仮称）」に進学する可能性が高い、城西国際大学看護学部看護学科、福祉総合学部理学療法学科に在学する大学生、卒業生および保健医療、社会福祉関係等の施設に勤務する現専門職者（看護師・理学療法士等）を対象とし、調査を依頼した。

◆ 調 査 方 法 ：　調査対象とした城西国際大学の在学生 368 名、卒業生 709 名および保健医療、社会福祉関係等の施設 592 件に「城西国際大学大学院「健康科学研究科（仮称）」（設置構想中）に関するアンケート」調査用紙を郵送し、回答者は、依頼状に記載したアンケート URL にて回答を行った。

◆ 調 査 内 容 ：　アンケート質問項目は全 16 問の選択式とし、主な質問内容は以下の通りである。

・回答者の基本情報について
・城西国際大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程（仮称）への評価について
・城西国際大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程（仮称）への受験意向及び入学意向について

◆ 有効回答件数 ：　157 件

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100%と一致しない。

2～8ページは、アンケートで回答を得た157人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

Ⅰ．あなた自身のことについて伺います。

Ⅰ－1　年齢

選択項目		回答数	構成比
1	20代	102	65.0%
2	30代	19	12.1%
3	40代	19	12.1%
4	50代	14	8.9%
5	60代	2	1.3%
6	無回答	1	0.6%
合計		157	100.0%

Ⅰ－2　性別

選択項目		回答数	構成比
1	男性	66	42.0%
2	女性	91	58.0%
合計		157	100.0%

Ⅰ－3　ご専門・ご職業について

※「5　大学生（4年生）」、「6　大学生（3年生）」は、「4　その他」で回答を得た外数

選択項目		回答数	構成比
1	保健医療関係	78	49.7%
2	社会福祉関係	3	1.9%
3	教育関係	1	0.6%
4	その他	2	1.3%
5	大学生(4年生)	19	12.1%
6	大学生(3年生)	54	34.4%
合計		157	100.0%

Ⅰ－4　勤務先について

※「10　大学生」は、「9　その他」で回答を得た外数

選択項目		回答数	構成比
1	病院	52	33.1%
2	クリニック・その他医療機関	11	7.0%
3	行政機関（県及び市町村）	5	3.2%
4	企業	0	0.0%
5	訪問看護ステーション	5	3.2%
6	訪問リハビリテーション	1	0.6%
7	介護老人保健施設	9	5.7%
8	教育機関	0	0.0%
9	その他	1	0.6%
10	大学生	73	46.5%
合計		157	100.0%

Ⅰ－5　その勤務年数

選択項目		回答数	構成比
1	0 年	73	46.5%
2	1 年未満	3	1.9%
3	1 年以上 5 年未満	27	17.2%
4	5 年以上 10 年未満	12	7.6%
5	10 年以上 20 年未満	29	18.5%
6	20 年以上	13	8.3%
合計		157	100.0%

Ⅰ－6　保有している専門資格や免許（複数回答可）

※複数回答項目のため回答数は 157 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 157

選択項目		回答数	構成比
1	看護師	21	13.4%
2	助産師	0	0.0%
3	保健師	6	3.8%
4	理学療法士	51	32.5%
5	薬剤師	0	0.0%
6	作業療法士	2	1.3%
7	言語聴覚士	2	1.3%
8	介護福祉士	2	1.3%
9	社会福祉士	0	0.0%
10	管理栄養士	0	0.0%
11	特になし	77	49.0%
12	その他保健医療関連職	8	5.1%

Ⅰ－7　専門職者としての経験年数

選択項目		回答数	構成比
1	1 年未満	2	1.3%
2	1 年以上 5 年未満	20	12.7%
3	5 年以上 10 年未満	11	7.0%
4	10 年以上 20 年未満	21	13.4%
5	20 年以上	25	15.9%
6	なし	78	49.7%
合計		157	100.0%

Ⅰ－8　職位や役割

選択項目		回答数	構成比
1	特にない	108	68.8%
2	プリセプター	5	3.2%
3	主任・副師長	11	7.0%
4	師長・主査（係長級）	5	3.2%
5	課部長・所長（管理職級）	22	14.0%
6	管理者（開業含む）	6	3.8%
合計		157	100.0%

Ⅰ－9　専門職に関した最終学歴（複数の専門がある場合は、最も長いもの）

選択項目		回答数	構成比
1	専門学校	35	22.3%
2	短期大学	0	0.0%
3	大学	110	70.1%
4	大学院（修士および博士課程）	10	6.4%
5	その他	2	1.3%
合計		157	100.0%

Ⅰ－10　リカレント教育の場として、大学院への進学を考えるとすれば、その動機は何ですか？（あてはまるものすべてにチェック）

※複数回答項目のため回答数は 157 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 157

選択項目		回答数	構成比
1	最新の知識に基づき、新たな実践を開発できる力が必要だから	90	57.3%
2	スタッフ等への教育指導的立場を担うためには必要と考えるから	37	23.6%
3	教育者になりたいから	35	22.3%
4	知識・技術だけではなく、研究力を身に付ける必要性を感じるから	46	29.3%
5	他分野にまたがる広い視野での、マネジメント力、リーダーシップ力が必要だから	49	31.2%
6	学位が欲しいから	42	26.8%
7	さらに専門とするテーマを持ちたいから	38	24.2%
8	その他	1	0.6%

Ⅱ．本学設置構想中の大学院 健康科学研究科（仮称）に対する考え

Ⅱ－1　あなたは城西国際大学大学院健康科学研究科（仮称）を受験したいと思いますか。

選択項目		回答数	構成比
1	受験したい	27	17.2%
2	受験しない	130	82.8%
合計		157	100.0%

Ⅱ－2～Ⅱ－6 は、Ⅱ－1 で「1. 受験したい」と回答した 27 人が回答対象である。

Ⅱ－2　あなたは城西国際大学大学院健康科学研究科（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。

選択項目		回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	19	70.4%
2	合格した場合、併願する大学院の結果によっては入学したい	8	29.6%
合計		27	100.0%

Ⅱ－3　本学大学院への進学を考える理由は何ですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。

※複数回答項目のため回答数は 27 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 27

選択項目		回答数	構成比
1	専門分野の知識や視野を広げたいから	22	81.5%
2	リカレント教育に魅力があるから	3	11.1%
3	他学部合同による健康科学研究科（仮称）に魅力を感じるから	6	22.2%
4	教員の専門分野に関心があるから、又は、指導を受けたい教員がいるから	7	25.9%
5	同じ修士の学位取得ができるなら、地元で学びたいから	7	25.9%
6	地域連携、チーム連携に根差した教育に期待があるから	4	14.8%
7	働きながら学べる大学院だから	17	63.0%
8	大学院で学びたいが、国公立のハードルは高いから	2	7.4%
9	職場内のみの教育では限界を感じるから	4	14.8%
10	その他	0	0.0%

Ⅱ－4　健康科学研究科（仮称）のどの領域で学びたいですか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

※複数回答項目のため回答数は 27 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 27

選択項目		回答数	構成比
1	メディカル基礎領域（人の健康と QOL の向上に寄与する基礎医学技術を開発する力を養う）	8	29.6%
2	看護学領域（一般的な看護分野の中でさらに高度な実践を生み出す力、人の生涯発達を支援する力を養う）	8	29.6%
3	リハビリテーション学領域（日常生活活動の向上や、地域住民主体による自助・互助活動の支援、スポーツ活動等が身体機能に及ぼす影響について考察し予防的解決策を立案・実践する力を養う）	20	74.1%

Ⅱ－5　健康科学研究科（仮称）では、リカレント教育の推進を重要な目的としております。臨床現場で働きながら大学院で学びを深めることの課題として、あてはまるもの全てにチェックしてください。

※複数回答項目のため回答数は 27 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 27

選択項目		回答数	構成比
1	授業料など費用的な負担	23	85.2%
2	臨床業務との両立による時間的な制約	18	66.7%
3	通学における距離や時間	14	51.9%
4	職場の理解が得にくい	2	7.4%
5	その他	0	0.0%

Ⅱ－6　大学院の授業や研究指導についてどのようなことを希望されますか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

※複数回答項目のため回答数は 27 人の延べ数／各構成比 ＝ 回答数 ÷ 27

選択項目		回答数	構成比
1	対面での授業・研究指導	18	66.7%
2	オンラインを活用した授業・研究指導	15	55.6%
3	平日昼間の時間帯の授業・研究指導	3	11.1%
4	平日夜間の時間帯の授業・研究指導	12	44.4%
5	土曜日の集中授業	10	37.0%
6	研究フィールドの提供	9	33.3%
7	指導教員が臨床・臨地現場に赴き研究指導の実施	11	40.7%
8	その他	0	0.0%

自由記述

No	回答
1	興味はあるのですが、少し学費が高いかな、と感じました。
2	研究と現場の乖離が気になる。繋ぎ役の方が必要だと思われる。
3	言語聴覚に特化した領域があるなら検討したいです。
4	私自身は院で学ぶ事はあまり考えておりませんが、働きながら通いやすい大学院があるのは、若手スタッフには選択肢が増えていいのではないかと思います。
5	奨学金の返済が終わり次第、検討させていただきます。

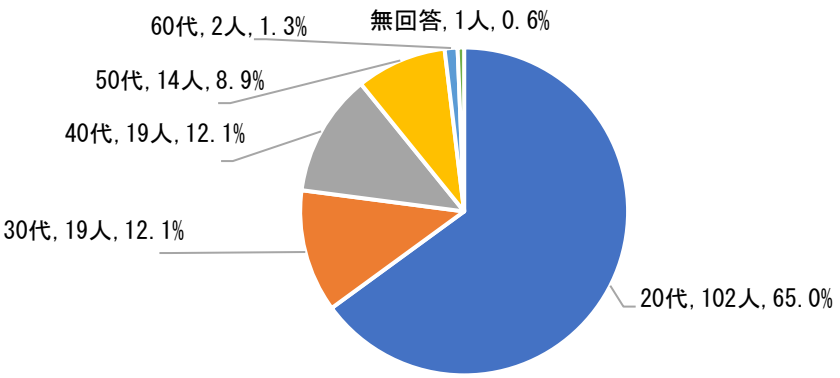
3 集計結果のポイント

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計はかならずしも 100%と一致しない。

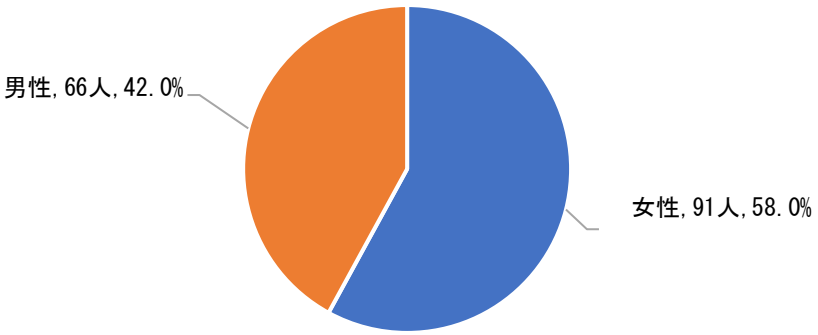
● 回答者の約７割が 20 代、男女比は女性が約６割

Ⅰ－1、Ⅰ－2 の回答者の属性を問う質問への回答結果では、年齢については、20 代が 102 人（65.0%）、30 代が 19 人（12.1%）、40 代が 19 人（12.1%）、50 代が 14 人（8.9%）、60 代が 2 人（1.3%）であった。また男女の比率は、女性が 91 人（58.0%）、男性が 66 人（42.0%）であった。

グラフ　回答者の年齢（Ⅰ－1）



グラフ　回答者の性別（Ⅰ－2）

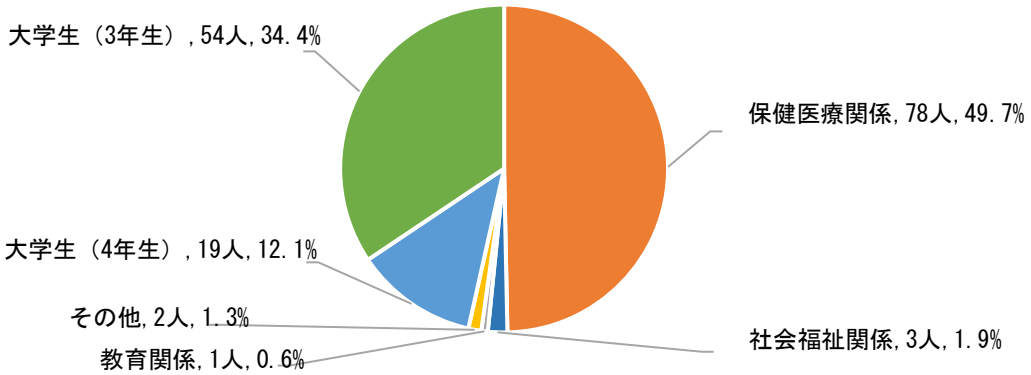


● 回答者の約５割が保健医療機関で、約３割が病院で勤務

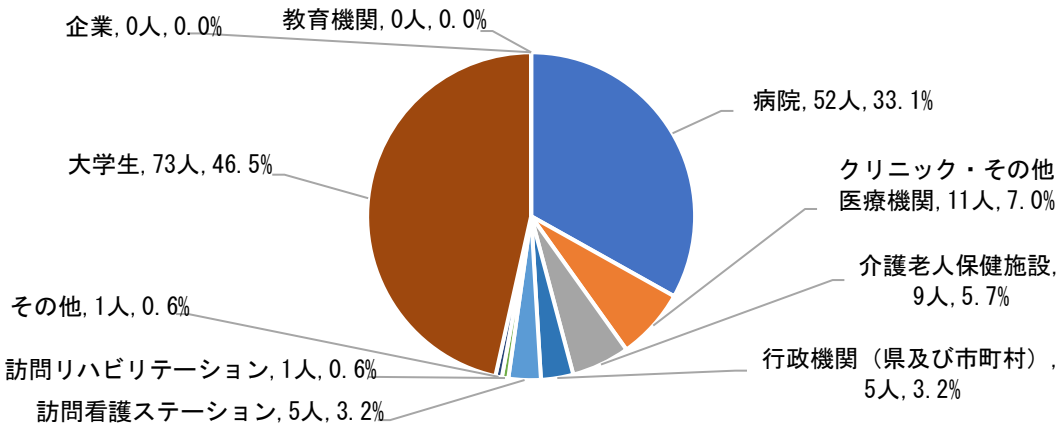
Ⅰ－3、Ⅰ－4、Ⅰ－5、Ⅰ－8 の回答者の勤務状況を問う質問への回答結果では、職業については、回答の多い順に保健医療関係が 78 人（49.7%）、社会福祉関係が 3 人（1.9%）、教育関係が 1 人（0.6%）であり、その他で回答した 75 人の内 19 人（12.1%）が大学 4 年生、54 人（34.4%）が大学 3 年生であった。また勤務先については、病院が 52 人（33.1%）、クリニック・その他医療機関が 11 人（7.0%）、介護老人保健施設が 9 人（5.7%）、行政機関（県及び市町村）および訪問看護ステーションが 5 人（3.2%）、訪問リハビリテーションが 1 人（0.6%）、その他が 74 人（47.1%）（大学生 73 人（46.5%）を含む）であった。

更に勤務年数については、10 年以上 20 年未満が 29 人（18.5%）、1 年以上 5 年未満が 27 人（17.2%）、20 年以上が 13 人（8.3%）、5 年以上 10 年未満が 12 人（7.6%）、1 年未満が 3 人（1.9%）であり、大学生と回答した者は全員（73 人）が 0 年と回答した。また、職位や役割については、特にないが 108 人（68.8%）（大学生 73 人含む）、課部長・所長（管理職級）が 22 人（14.0%）、主任・副師長が 11 人（7.0%）、管理者（開業含む）が 6 人（3.8%）、プリセプターおよび師長・主査（係長級）が 5 人（3.2%）からの回答となった。

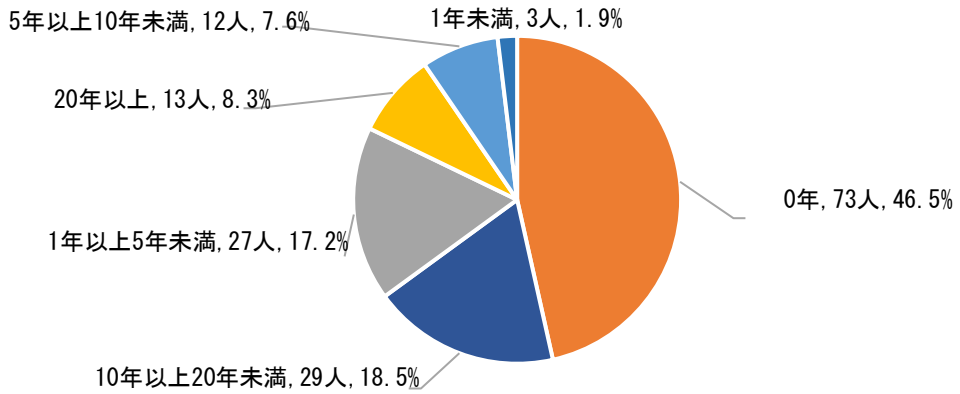
グラフ　回答者の職業（Ⅰ－3）



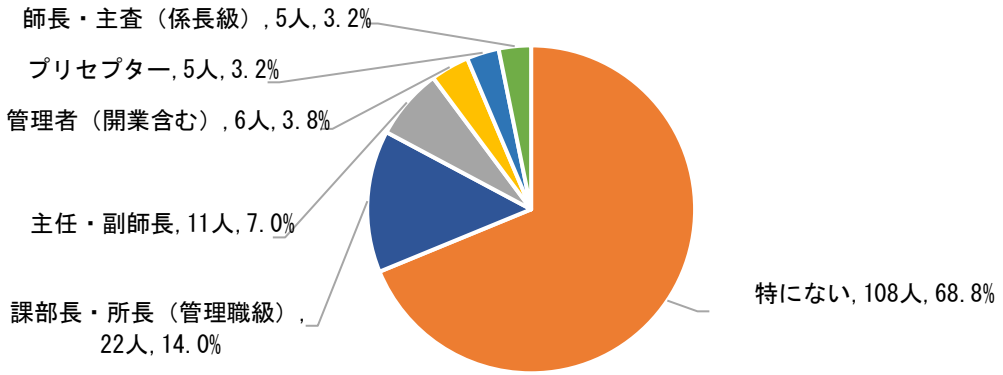
グラフ　回答者の勤務先（Ⅰ－4）



グラフ　回答者の勤務年数（Ⅰ－5）



グラフ　回答者の職位や役割（Ⅰ－8）

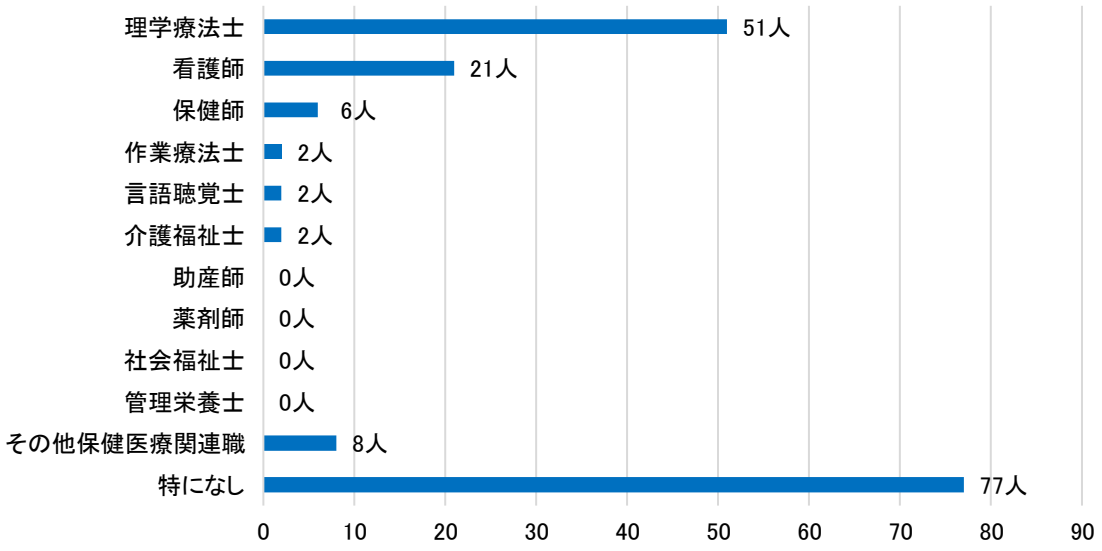


● 約３割が理学療法士、約１割が看護師の有資格者からの回答

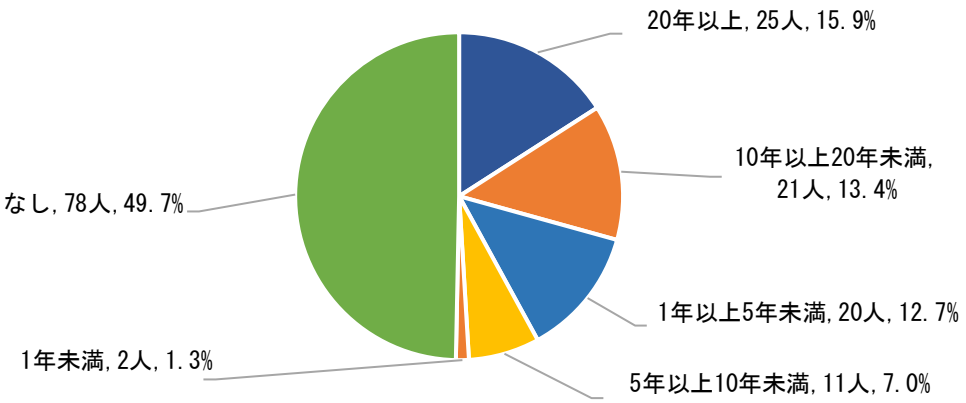
Ⅰ－6、Ⅰ－7 の回答者の専門資格や免許ついて問う質問への回答結果では、保有している専門資格や免許は、回答の多い順に理学療法士が 51 人（32.5%）、看護師が 21 人（13.4%）、保健師が 6 人（3.8%）、作業療法士、言語聴覚士および介護福祉士が 2 人（1.3%）、その他保健医療関連職が 8 人（5.1%）、特になしが 77 人（49.0%）（大学生 73 人含む）であった。

また、専門職者としての経験年数では、20 年以上が 25 人（15.9%）、10 年以上 20 年未満が 21 人（13.4%）、1 年以上 5 年未満が 20 人（12.7%）、5 年以上 10 年未満が 11 人（7.0%）、1 年未満が 2 人（1.3%）、なしが 78 人（49.7%）（大学生 73 人含む）であった。更に専門資格や免許別に経験年数を見てみると、理学療法士と回答した 51 人は、10 年以上 20 年未満が 18 人、20 年以上が 15 人、1 年以上 5 年未満が 9 人、5 年以上 10 年未満が 7 人、1 年未満が 1 人、なしが 1 人、看護師と回答した 21 人は、1 年以上 5 年未満が 10 人、20 年以上が 7 人、5 年以上 10 年未満が 2 人、1 年未満が 1 人、なしが 1 人、保健師と回答した 6 人は保健師としての勤務はなし、作業療法士と回答した 2 人は、20 年以上が 1 人、10 年以上 20 年未満が 1 人、言語聴覚士と回答した 2 人は、20 年以上が 1 人、5 年以上 10 年未満が 1 人、介護福祉士と回答した 2 人は、10 年以上 20 年未満が 1 人、なしが 1 人であった。

表　回答者の保有している専門資格や免許（Ⅰ－6）



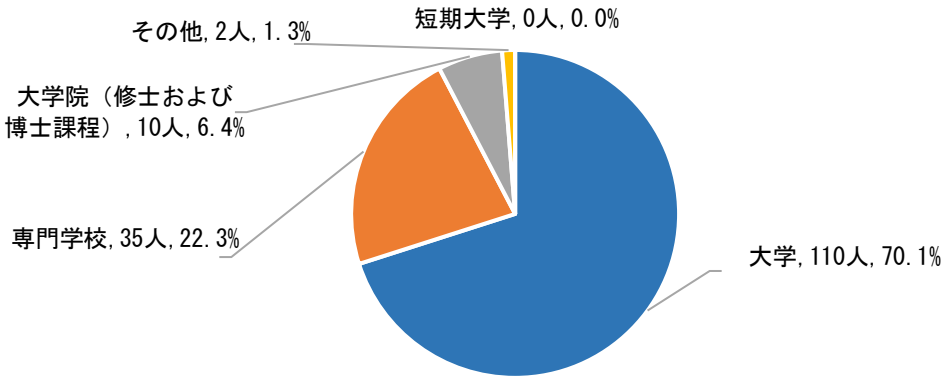
グラフ　回答者の専門職者としての経験年数（Ⅰ－7）



● 110 人が大学卒業、10 人が大学院修了

Ⅰ－9 の回答者の専門職に関した最終学歴について問う質問への回答結果では、大学が 110 人（70.1%）（大学生 73 人の見込み含む）、大学院（修士および博士課程）が 10 人（6.4%）で、120 人が本研究科への出願資格を満たしている回答であった。

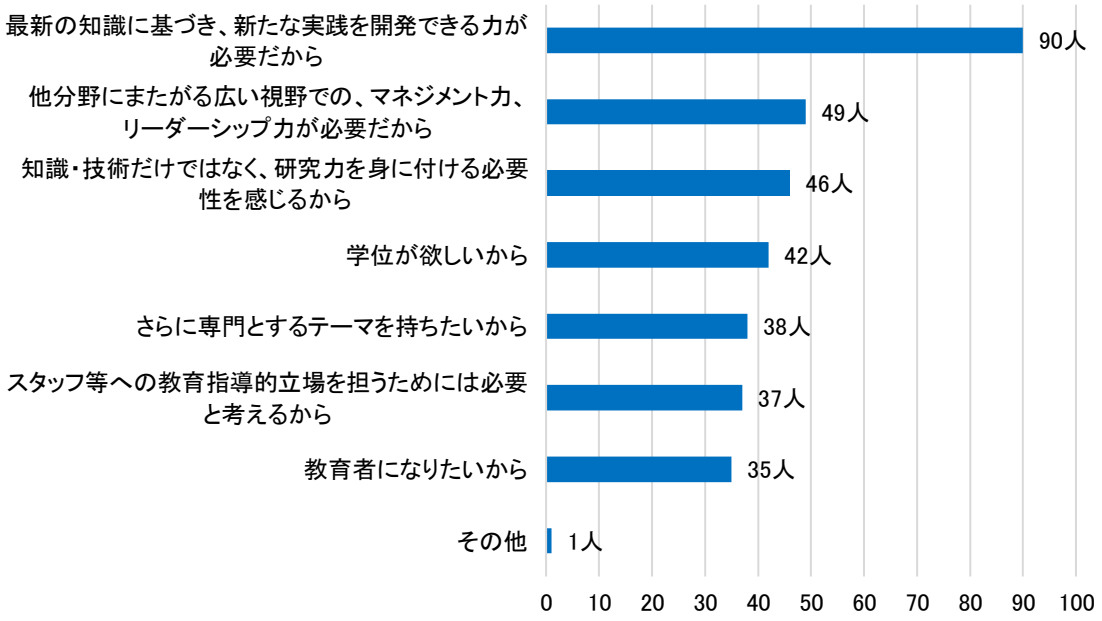
グラフ　回答者の最終学歴（Ⅰ－9）



● 最新の知識に基づき、新たな実践を開発できる力が必要だからが約６割の回答

Ⅰ－10 のリカレント教育の場として、大学院への進学を考えた時の動機について問う質問への回答結果では、回答の多い順に、最新の知識に基づき、新たな実践を開発できる力が必要だからが 90 人（57.3%）、他分野にまたがる広い視野での、マネジメント力、リーダーシップ力が必要だからが 49 人（31.2%）、知識・技術だけではなく、研究力を身に付ける必要性を感じるからが 46 人（29.3%）、学位が欲しいからが 42 人（26.8%）、さらに専門とするテーマを持ちたいからが 38 人（24.2%）、スタッフ等への教育指導的立場を担うためには必要と考えるからが 37 人（23.6%）、教育者になりたいからが 35 人（22.3%）、その他が 1 人（0.6%）であった。

表　リカレント教育の場として、大学院への進学を考えた時の動機（Ⅰ－10）



● 予定入学定員を上回る 19 人が入学意向を示す

受験意向を問うⅡ－1 の回答結果では、回答者 157 人のうち 27 人（17.2%）が「（本大学院を）受験したい」と回答した。

また、「受験したい」と回答した 27 人のうち、入学意向を問うⅡ－2 に対し、19 人（70.4%）が合格した場合、入学したいと回答した。その他、合格した場合、併願する大学院の結果によっては入学したいと回答した者が 8 人いることから、更に入学を希望する者が増加すると見込まれる。

本研究科の入学定員は 8 名であり、それを十分に上回る受験意向・入学意向の回答を得た。

グラフ　受験意欲（Ⅱ－1）

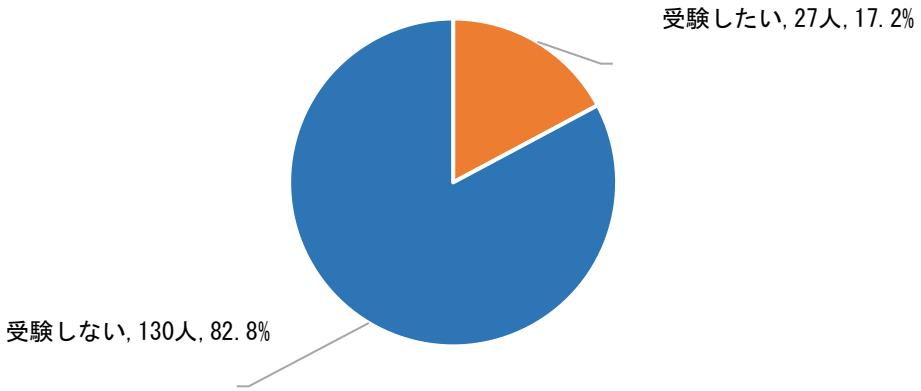
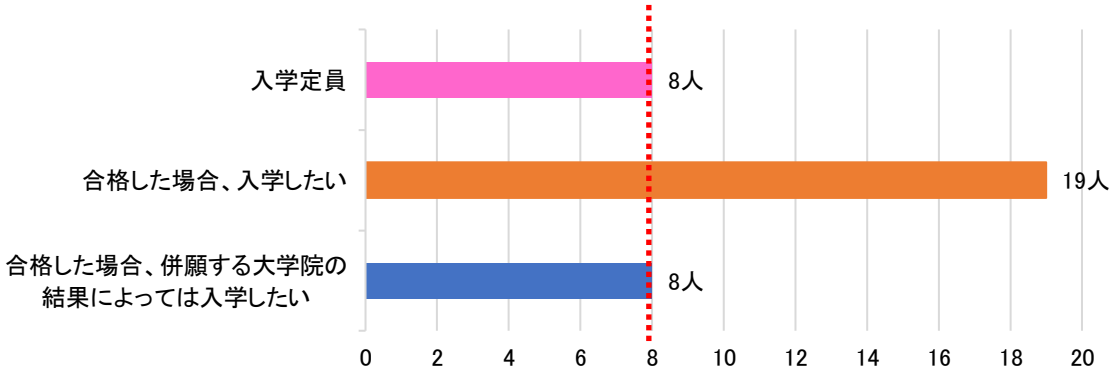


表　入学意欲（Ⅱ－2）



● 入学意欲と回答者の属性のクロス集計結果

本研究科への入学意欲（Ⅱ－2）における回答と、回答者の年齢（Ⅰ－1）の回答をクロス集計したところ、20 代が最も多く 19 人（大学生 7 人含む）であり、30 代が 3 人、40 代が 4 人、50 代が 1 人であった。

また、入学意欲（Ⅱ－2）における回答と、回答者の勤務先（Ⅰ－4）および勤務経験している専門資格や免許（Ⅰ－7）の回答をクロス集計したところ、病院が最も多く 18 人、クリニック・その他医療機関が 1 人、介護老人保健施設が 1 人、大学生が 7 人と各施設および在学生から一定数の進学意欲を示す回答が得られた。

専門職者の専門資格や免許別に見てみると、理学療法士が 12 人（内、合格した場合、入学したいと回答した者 8 人）、看護師が 6 人（内、合格した場合、入学したいと回答した者 5 人）、作業療法士が 1 人、特になしが 5 人（内、合格した場合、入学したいと回答した者 6 人）であり、多くの資格で進学意欲を示す回答が得られた。

表　入学意欲（Ⅱ－2）× 回答者の年齢（Ⅰ－1）

選択項目		20 代	30 代	40 代	50 代
1	合格した場合、入学したい	16 人 （内大学 4 年生 3 人 大学 3 年生 2 人）	0 人	2 人	1 人
2	合格した場合、併願する大学院の結果によっては入学したい	3 人 （内大学 4 年生 1 人 大学 3 年生 1 人）	3 人	2 人	0 人
合計		19 人 （内大学 4 年生 4 人 大学 3 年生 3 人）	3 人	4 人	1 人

表　入学意欲（Ⅱ－2）× 回答者の勤務先（Ⅰ－4）× 勤務経験している専門資格や免許（Ⅰ－7）

選択項目		病院	クリニック・その他医療機関	介護老人保健施設	大学生
1	理学療法士	11 人（8 人）	1 人	0 人	0 人
2	看護師	6 人（5 人）	0 人	0 人	0 人
3	作業療法士	0 人	0 人	1 人	0 人
4	特になし	1 人（1 人）	0 人	0 人	7 人（5 人）
合計		18 人（14 人）	1 人	1 人	7 人（5 人）

※括弧内は、合格した場合、入学したいと回答した者の内数

● 本研究科の３つの領域それぞれに学びたい魅力を感じるという回答結果

Ⅱ－４の学びたい領域について問う質問への回答結果では、リハビリテーション学領域が20人で、内、合格した場合、入学したいと回答した者14人、看護学領域が８人で、内、合格した場合、入学したいと回答した者７人、メディカル基礎領域が８人で、内、合格した場合、入学したいと回答した者４人と回答が得られ、どの領域も一定数の希望がある回答となった。

また、勤務経験している専門資格や免許別の学びたい領域については、理学療法士と回答した12人は、リハビリテーション学領域が11人（内、合格した場合、入学したいと回答した者８人）、メディカル基礎領域が４人（内、合格した場合、入学したいと回答した者２人）、看護学領域が１人（内、合格した場合、入学したいと回答した者１人）であり、看護師と回答した６人は、看護学領域が５人（内、合格した場合、入学したいと回答した者４人）、メディカル基礎領域が２人（内、合格した場合、入学したいと回答した者１人）、リハビリテーション学領域が１人（内、合格した場合、入学したいと回答した者１人）であり、作業療法士と回答した１人は、リハビリテーション学領域であり、特になしと回答した８人は、リハビリテーション学領域が７人（内、合格した場合、入学したいと回答した者５人）、看護学領域が２人（内、合格した場合、入学したいと回答した者２人）、メディカル基礎領域が２人（内、合格した場合、入学したいと回答した者１人）であった。

表　入学意欲（Ⅱ－2）×　勤務経験している専門資格や免許（Ⅰ－7）×　学びたい領域（Ⅱ－4）

選択項目		リハビリテーション学領域	看護学領域	メディカル基礎領域
1	理学療法士	11人（8人）	1人（1人）	4人（2人）
2	看護師	1人（1人）	5人（4人）	2人（1人）
3	作業療法士	1人（0人）	0人	0人
4	特になし	7人（5人） 内大学生6人（4人）	2人（2人） 内大学生2人（2人）	2人（1人） 内大学生2人（1人）
合計		20人（14人） 内大学生6人（4人）	8人（7人） 内大学生2人（2人）	8人（4人） 内大学生2人（1人）

※括弧内は、合格した場合、入学したいと回答した者の内数

● 予定する入学定員を上回る 19 人が入学意欲を示した

以上の結果より、城西国際大学大学院が令和 5 年 4 月に設置構想する「城西国際大学大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 修士課程（仮称）」の学生確保の見通しは、27 人が受験意向を示し、そのうち 19 人が入学意向を示す回答であり、予定する入学定員の 8 名を上回る回答結果であるため、問題なしと判断できる。

添付資料

「城西国際大学大学院「健康科学研究科（仮称）」（設置構想中）に関するアンケート」

調査用紙

城西国際大学大学院「健康科学研究科（仮称）」（設置構想中）に関するアンケート

I. あなた自身のことについて伺います。
1. 年齢（回答時点、数字のみ記入）

2. 性別　男性 ・ 女性

3. ご専門・ご職業について
保健医療関係　社会福祉関係　教育関係　その他（　　）

4. 勤務先について
病院　クリニック・その他医療機関　行政機関（県及び市町村）　企業
訪問看護ステーション　訪問リハビリテーション　介護老人保健施設　教育機関
その他（　　）

5. その勤務年数（記入時点、数字のみ記入）

6. 保有している専門資格や免許（複数回答可）
看護師　助産師　保健師　理学療法士　薬剤師　作業療法士　言語聴覚士
介護福祉士　社会福祉士　管理栄養士　特になし　その他保健医療関連職（　　）

7. 専門職者としての経験年数（例：「看護師として5年」と記入。複数ある場合は、改行して記入。ない場合は、「なし」と記入）

8. 職位や役割
特にない　プリセプター　主任・副師長　師長・主査（係長級）　課部長・所長（管理職級）
管理者（開業含む）

9. 専門職に関した最終学歴（複数の専門がある場合は、最も長いもの）
専門学校　短期大学　大学　大学院（修士および博士課程）
その他（　　）

10. リカレント教育の場として、大学院への進学を考えるとすれば、その動機は何ですか？（あてはまるものすべてにチェック）
- □ 最新の知識に基づき、新たな実践を開発できる力が必要だから
- □ スタッフ等への教育指導的立場を担うためには必要と考えるから
- □ 教育者になりたいから
- □ 知識・技術だけではなく、研究力を身に付ける必要性を感じるから
- □ 他分野にまたがる広い視野での、マネジメント力、リーダーシップ力が必要だから
- □ 学位が欲しいから
- □ さらに専門とするテーマを持ちたいから
- □ その他（　　）

II.本学設置構想中の大学院 健康科学研究科（仮称）に対する考え
本学の設置構想中の大学院のような複合学部からなる研究科では、専門分野間の境を超えた、多様な視点、学び、異なる専門職種との連携が得られる、多様な専門分野の教員による指導が受けられるなどの利点が考えられます。
1. あなたは城西国際大学大学院健康科学研究科（仮称）を受験したいと思いますか。
①受験したい →次の設問に進んでください。
②受験しない →アンケートは以上です。次のページに進んで、送信ボタンを押して終了してください。ご協力ありがとうございました。

2. あなたは城西国際大学大学院健康科学研究科（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。
①合格した場合、入学したい
②合格した場合、併願する大学院の結果によっては入学したい

3. 本学大学院への進学を考える理由は何ですか。当てはまるもの全てにチェックしてください。
☐ 専門分野の知識や視野を広げたいから
☐ リカレント教育に魅力があるから
☐ 他学部合同による健康科学研究科（仮称）に魅力を感じるから
☐ 教員の専門分野に関心があるから、又は、指導を受けたい教員がいるから
☐ 同じ修士の学位取得ができるなら、地元で学びたいから
☐ 地域連携、チーム連携に根差した教育に期待があるから
☐ 働きながら学べる大学院だから
☐ 大学院で学びたいが、国公立のハードルは高いから
☐ 職場内のみの教育では限界を感じるから
☐ その他（　　）

4. 健康科学研究科（仮称）のどの領域で学びたいですか。あてはまるもの全てにチェックしてください。
☐ メディカル基礎領域（人の健康とQOLの向上に寄与する基礎医学技術を開発する力を養う）
☐ 看護学領域（一般的な看護分野の中でさらに高度な実践を生み出す力、人の生涯発達を支援する力を養う）
☐ リハビリテーション学領域（日常生活活動の向上や、地域住民主体による自助・互助活動の支援、スポーツ活動等が身体機能に及ぼす影響について考察し予防的解決策を立案・実践する力を養う）

5. 健康科学研究科（仮称）では、リカレント教育の推進を重要な目的としております。臨床現場で働きながら大学院で学びを深めることの課題として、あてはまるもの全てにチェックしてください。
☐ 授業料など費用的な負担
☐ 臨床業務との両立による時間的な制約
☐ 通学における距離や時間
☐ 職場の理解が得にくい
☐ その他（　　）

6. 大学院の授業や研究指導についてどのようなことを希望されますか。あてはまるもの全てにチェックしてください。
☐ 対面での授業・研究指導
☐ オンラインを活用した授業・研究指導
☐ 平日昼間の時間帯の授業・研究指導
☐ 平日夜間の時間帯の授業・研究指導
☐ 土曜日の集中授業
☐ 研究フィールドの提供
☐ 指導教員が臨床・臨地現場に赴き研究指導の実施
☐ その他（　　）

ご協力ありがとうございました
本学設置構想中の大学院 健康科学研究科（仮称）は、これからの時代に求められる高度専門医療に従事するための、実効性のある高度専門職業スキル向上を最大の目的としています。したがいまして、授業時間等での柔軟な対応（オンライン等を活用した授業、6 限（19:10-20:55）と土曜日を活用、サマー・セッション、ウィンター・セッションを活用した授業設定）の他、研究指導にあたっては、キャンパス内での授業と演習指導にとどまらず、大学院生の臨床・臨地現場に指導教員が赴いて、対象者の状態や大学院生の介入場面を把握し、その場面で直接、助言と指導を行うなど、社会人の学修環境に柔軟に対応していくことも考えております。このことに関して、何かご意見がございましたらよろしくお願いいたします。
自由記述（　　）

[redacted]

■概要

開設時期：2023年4月（予定）
入学定員：8名（男女共学）
取得学位：修士（健康科学）/ Master of Health Sciences
標準修業年限：2年
開設場所：千葉県東金市求名
（城西国際大学東金キャンパス）

■教育研究上の目的

健康科学研究科（仮称）は、保健・医療の分野を横断し、現代の健康問題に対応することができる総合的視野を養い、これまで培ってきた自身の専門性を掘り下げ、健康の構成要素を追求し、健康を科学的に研究できる人材を養成する。

■健康科学研究科（仮称）の目的

現代の我が国の健康課題は健常者、障がい者を問わず単純に疾病の治癒をゴールにできなくなっており、単一の専門分野だけでは対応できなくなっている。人々が、疾病や障害と折り合いをつけながら、より健康的で幸福な生活を追求できるためには、科学的根拠をもって「健康」を支援する術について、専門領域を超えた様々な視点から検討する人材が必要である。「健康科学研究科（仮称）」では、そのための学びの領域として、①人の健康とQOLの向上に寄与する基礎医学技術を開発する力を養う「メディカル基礎領域」、②一般的な看護分野の中でさらに高度な実践を生み出す力、人の生涯発達を支援する力を養う「看護学領域」、及び③日常生活活動の向上や地域住民主体による自助・互助活動の支援、さらにスポーツ活動等が身体機能に及ぼす影響について考察し予防的解決策を立案・実践する力を養う「リハビリテーション学領域」を設置する。異なる専門領域の学びを共有し、「健康」を多角的に洞察できる力を涵養するとともに、現代の健康課題に対応した健康科学の高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成をめざす。

■カリキュラム

1年次：共通科目、健康科学基盤科目、研究基礎科目、専門科目、特別研究科目を中心に履修。共通科目6科目、健康科学基盤科目2科目、研究基礎科目2科目は必修。その他の専門科目、特別研究科目については、希望した領域に応じて選択。
2年次：希望した領域に応じて、共通科目、健康科学基盤科目、研究基礎科目・専門科目、特別研究科目から選択履修。希望した領域で研究を進め、修士論文を作成。

■社会人に対する配慮

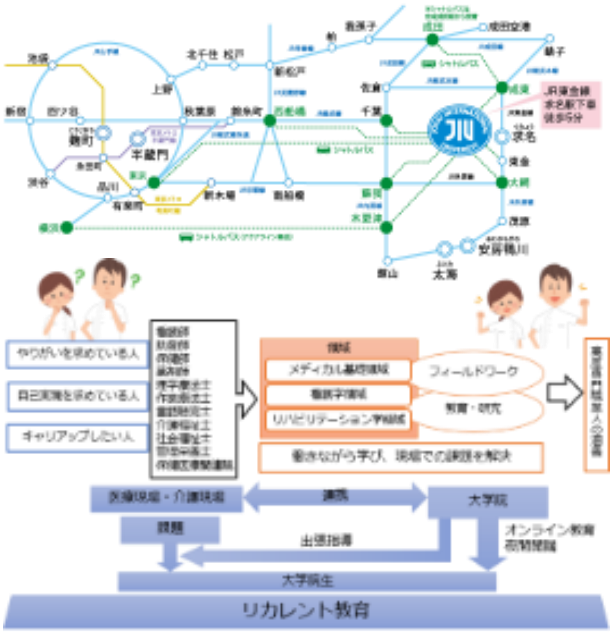
・6限（19:10-20:55）と土曜日を活用
・多様なメディアを活用（オンライン授業など）
・社会人大学院生の職場に教員が赴き、職場をフィールドとする教育・研究指導の実践
・サマー・セッション、ウィンター・セッションを活用した授業設定
・職業実践力育成プログラム認定制度及び教育訓練給付制度を申請予定

■出願資格

次の各項のいずれかに該当する者
①学士の学位を授与（見込）されたもの
②外国において、学校教育法による16年課程を修了（見込）した者
③文部科学大臣が指定した者
④本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
※出願資格については個別にご相談ください。

■アクセス

●JR東金線「求名駅」下車徒歩5分



■学費（他大学を含む）

大学院	所在地	研究科専攻	課程	学費（円）			
				入学金	授業料	その他	初年度納付金
城西国際大学大学院	千　葉	健康科学研究科健康科学専攻（仮称）	修士課程	270,000	630,000	182,000	1,082,000
国際医療福祉大学大学院	東　京	医療福祉学研究科保健医療学専攻	修士課程	300,000	800,000	200,000	1,300,000
文京学院大学大学院	東　京	保健医療科学研究科保健医療科学専攻	修士課程	200,000	632,000	285,900	1,117,900
昭和大学大学院	神奈川	保健医療学研究科保健医療学専攻	博士前期課程	100,000	400,000	200,000	700,000
東海大学大学院	神奈川	健康科学研究科保健福祉学専攻	修士課程	200,000	796,000	0	996,000

内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります。

資料４（健康科学研究科の競合大学院等の学費等納付金について）

【参考：健康科学研究科の競合大学院等の学費等納付金について】

単位：円

大学名	所在地	研究科	専攻	入学金	授業料	施設設備費	合計	備考
国際医療福祉大学大学院	東京	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	300,000	800,000	200,000	1,300,000	その他の費用は除く
文京学院大学大学院	東京	保健医療科学研究科	保健医療科学専攻	200,000	632,000	100,000	932,000	
昭和大学大学院	神奈川	保健医療学研究科	保健医療学専攻	100,000	400,000	200,000	700,000	
東海大学大学院	神奈川	健康科学研究科	保健福祉学専攻	200,000	796,000	－	996,000	
城西国際大学大学院	千葉 東京	人文科学研究科、福祉総合学研究科、国際アドミニストレーション研究科	国際文化専攻・女性学専攻・ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻、福祉社会専攻、国際アドミニストレーション専攻	270,000	580,000	100,000	950,000	
		経営情報学研究科、ビジネスデザイン研究科	起業マネジメント専攻、ビジネスデザイン専攻	270,000	580,000	150,000	1,000,000	
		薬学研究科	医療薬学専攻	270,000	780,000	150,000	1,200,000	
		健康科学研究科	健康科学専攻	270,000	630,000	150,000	1,050,000	